

県西教育事務所だより

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 令和3年7月13日発行(第3号)

Challenge
For The Future!

令和3年度 授業カブラッシュアップ研修(国語科) ～「読解力」と「論理的思考力」の育成を目指して～



国語科重点校(2年次) 第1回授業発表会の開催 【境町立境小学校 6月18日(金)】

公開学級・教材名	指導者
6年1組 『鳥獣戯画』を読む・「日本文化を発信しよう」	佐藤 和喜 教諭

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、参集型と併せ、オンラインによる授業参観と研究協議を行いました。1人1台端末時代における新しい研修の在り方の提案ともなりました。

授業改善の手立て	<ul style="list-style-type: none">・「読むこと」と「書くこと」の複合単元及び教科横断的な視点を取り入れた単元設定と言語活動の工夫(マッピングシート・語彙カシートの活用など)・解説文を書く上での「7つのポイント」の提示と導入の工夫・「共有の視点」を明確にし、ホワイトボードを活用した話し合い活動の工夫・「目指す児童の姿」を具体的に想定した評価規準の設定・ICT機器(1人1台端末タブレット・電子黒板)の活用
成果	<ul style="list-style-type: none">・『鳥獣戯画』を読む(読むこと)の学習を生かし、表現を工夫して解説文を書くことができた。・「共有の視点」を明確にし、ホワイトボードに直接加除修正する活動を設定することで、話し合いに主体的に取り組み、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができた。・「記録に生かす評価」と「指導に生かす評価」の評価規準や評価方法の在り方を再確認することができた。



〔ホワイトボードを活用した話し合いの様子〕



〔まとめの場面〕

茨城県教育庁義務教育課の鈴木優子指導主事から次のような指導・助言がありました。自校の授業改善の視点として参考にしていただきますよう、お願いいたします。

- 学習指導案が、学習指導要領の目標や内容、解説、児童の実態、前単元までの学習状況などを踏まえており、身に付けたい資質・能力が明確である。
(「横断的教科の関連性」の部分に、各学年の指導事項を明記するとさらによい。)
- 「指導と評価の計画」がよく練られており具体的である。実際の評価において、どの場面で、どのように書かれていれば、A(またはB・C)とするかなど、評価の方法をさらに明確にし、確実に見取るところまで実践してほしい。
- 「表現の工夫」と「書き表し方の工夫」の違いを指導者が正確に捉えることが必要である。本時は、「事実と感想、意見とを区別する力」を身に付けることに焦点を当てるとよい。
- 不足のある例文(バッドモデル)を提示して、学級全体で改善点を確認し、その後、各自で自分の解説文の書き表し方の工夫について考えるという活動も有効である。
- 児童生徒の資質・能力を育成するためには、児童生徒が主体的に試行錯誤する場面を意図的に設定することが大切である。指導者は、「何のために言語活動を設定するのか」という視点に基づいて授業づくりをしてほしい。

※ 授業カブラッシュアップ研修会資料(国語:境町立境小学校、算数・数学:坂東市立東中学校)を同送いたします。併せて御活用ください。

令和3年度全国学力・学習状況調査抽出データの集計結果を活用し授業改善を -「学校改善プラン」の活用-

令和3年6月21日に、義務教育課より「令和3年度全国学力・学習状況調査抽出データの集計結果について」の通知がありました(義教第807号)。

この結果を参考に、自校の授業改善や補充指導等の実施に活用していただきますようお願いいたします。

その際、「学校改善プラン」と照らし合わせ、「当初の計画どおりでよいか」、「進捗状況はどうか」等について全教職員で確認するなど、児童生徒の学力向上のために「学校改善プラン」の積極的な活用をお願いいたします。

チェックしてみましょ

- 抽出データの集計結果と自校採点の結果を比較するなどして、**自校の課題を明らかにしましたか。**
- 明らかになった課題を踏まえ、当初計画した「**学校改善プラン**」を見直す点はないか、**全教職員で検討しましたか。**
- 4月から現在までの自校の取組を振り返り、**その成果と課題を「学校改善プラン」に反映(朱書きするなど)させましたか。**

【研修計画】	
7月	9月
15日 全国学 力・学習状 況調査結 果分析	2日 学力向上 研修②(2 学期以降 の授業改 善につい て)

7月・9月に、このような研修を計画している学校が多くありました。

不登校解決のためのリソースを探す~「GRROWモデル」で解決の手立てを見付ける~

県西教育事務所管内の課題として、不登校児童生徒数の増加があります。不登校解決のためには、「要因」を分析し、問題解決の手立てを探すことが重要です。2017年3月に策定された「教育機会確保法」の基本方針では、不登校解決のゴールは「**子どもの社会的自立**」であると示されています。今回は、不登校解決の手立てを見付ける方法として「GRROWモデル」を紹介します。

GRROWモデルとは、イギリスで開発されたコーチングモデルです。

組織として、目標を一つにして共通実践することが重要です。

- G**…目標(Goal)の明確化=最終的にどうなしてほしいか
※それぞれの立場で対等なパートナーとして、ゴールを一つ設定する
- R**…現状把握(Reality)=今、どんな状況なのか
※児童生徒の欠席状況 学校外の交友関係 授業中の様子 家庭の状況
- R**…選択肢や資源の発見(Resource)=使える人・もの・時間
※協力してくれる関係機関 同じような事例をもっている職員 ゆっくり話をするための時間はいつが良いか
- O**…視点を変えた選択肢の創造(Option)=もっと他には
※もっと他の方法はないか もし自分が児童生徒の立場ならどうしてほしいか
- W**…目標達成の意思・約束(Will)=いつからする
※優先順位はどうするか 明日からできることは何か いつ、だれが、どのようにするか

情報共有は組織対応の第1歩!!

短期的な目標を繰り返して最終ゴールに向かう


夏季休業を前に自校の生徒指導体制の再確認をお願いいたします。

参考資料:NITS 校内研修シリーズ コーチングのスキルと活用Ⅲ~不登校解決のためのリソースを探す~

【人事課より】 「学校チーム力向上推進モデル校」の取組 常総市立石下中学校

教職員間の同僚性や組織で対応できるようなチーム力を高める取組
~喫緊の課題である学校コンプライアンスの推進を通して~

常総市立石下中学校は、令和2年度に「学校チーム力向上推進モデル校」の指定を受け、喫緊の課題である学校コンプライアンスの推進において、特にチーム力や組織力の向上を目指して研究実践を行いました。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いた校内研修の実施 講師:駿河台大学名誉教授 水尾順一先生 ・企業の取組を取り入れた研究の推進 ・若手推進委員(リーダー)中心の研修の充実 ・コンプライアンス通信の発行 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いて研修を行ったことによる、手探り感や取組に対する不安感の軽減 ・若手推進委員中心の研修の充実 ・当事者意識をもつことの大切さの再確認 ・同僚性が高まったことによる、授業改善や生徒理解についての情報交換、教育活動の活性化 	

いかにして当事者意識をもつか、いかにしてより良い職場環境づくりを進めるかが、不祥事の根絶につながります。各学校でも、引き続き先生方一人一人のコンプライアンス意識の涵養と、職場全体の意識の醸成を図っていきましょう。